

■今月の特選句

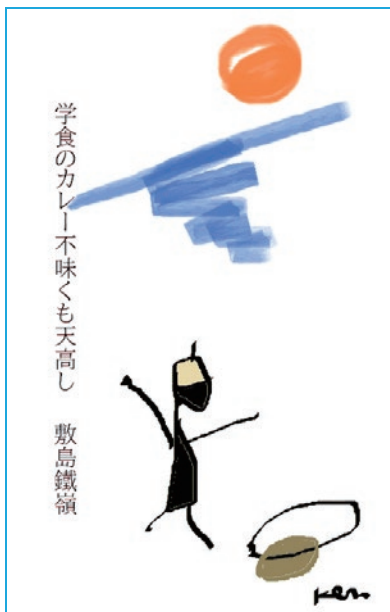
2025年11月



煩惱をダブルクリック神の留守

遠藤真太郎

神様が出雲にお出かけの間は、のびのびと煩惱を開放するのだ。パソコンの中の文書やフォルダーを開く時に、マウスをダブルクリックするように。



学食のカレー不味くも天高し

敷島鐵嶺

学食のカレーは、やたら辛くて肉も野菜も少ない。味よりも安さを優先するから仕方ない。贅沢はできないが、学生には若さと希望がある。



そうか夜露に濡れて我を待つのか

沖枇杷夫

こんな台詞を言ってみたいものだが、夜露に濡れながらもじっと恋人を待つのは、昭和世代の人だけかも。今はLINEで「遅れるなら帰るわね」。

■今月の特選句

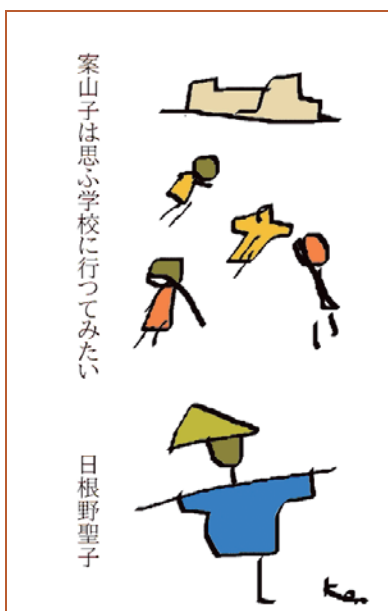
2025年11月



国道二四六沿いの神社へ七五三

奥野元喜

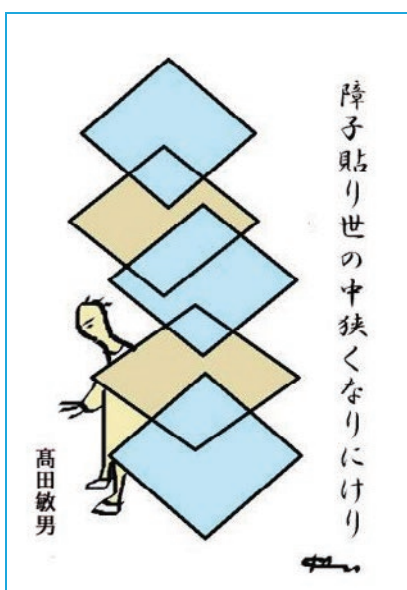
数字を使って面白い句になった。句にまとまるまで四苦八苦、七転八倒したかもしれない。滑稽俳句大賞に応募して一攫千金を狙ってください。



案山子は思ふ学校に行つてみたい

日根野聖子

案山子は、役目が終われば捨て案山子にされる。人間の子はいいなあ、友達がいていいなあ。よくぞ案山子の気持ちになりましたね。優しい滑稽句。



障子貼り世の中狭くなりけり

高田敏男

障子を貼り終わると、すべての障子を閉めきって出来栄を眺める。夏の間は開け放したままにしていたが、これからは世間と隔絶するのである。

■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

お喋りの老婆三人みな案山子
・・・うつかり道を訊きさうになり

桜井美千

女子高に堂々入れる文化祭
・・・嬉しいけれど気恥ずかしくて

池嶋久春

メガネマスク補聴器ピアス耳多忙
・・・ヘッドホンするゆとりはないね

青木輝子

置手紙即ち夏の恋終わる
・・・秋に始まる新しい恋

池田奈美子

もし月に行ったらできぬ月見酒
・・・月に到着まづは祝宴

永井流運

懐手合点承知には非ず
・・・指で足し算引き算をして

西野周次

睡蓮の池の濁りもモネの真似
・・・絵を描く人の芸のこまやか

工藤泰子

全力で太った冬瓜は重い
・・・生命力の重さにあらむ

鈴木和枝

コスモスやゆく先々は風の村
・・・風に揺られてこそそのコスモス

井口夏子

囲われて街の中なる月見風呂
・・・夜空も四角に切り取られをり

伊藤浩睦

秋彼岸父母の墓前で子に戻り
・・・彼岸過ぎればまた親となり

稲葉純子

台風は都会と田舎を区別せず
・・・公平たるを信条として

上山美穂

長き夜の力絞りて一句成す
・・・短夜ならば字足らずの句に

久松久子

■今月の滑稽句

* 今月の特選句・秀逸句以外の佳句を青字で表示しています。

有る振りで胡麻を摺らせる敬老日
ささやくにあつらへ向きの星月夜
飛火して消火かなわぬ曼珠沙華
文月やスマホですますラブレター
秋夜長俳句をひねり星いくつ
秋なのに食べてならぬと医者顔
葡萄買ふあの子の好きな黒い方
未練断つ如くに潜る夏暖簾
ひまわりの迷路迷う子花遍路
長寿よしがきのままよし敬老日
政治家を呼び捨てとなる濁り酒
月見酒団子に鰯(するめ)用意して
パチンと張られ頬に一片紅葉かな
捌かれて鰯にや鰯の意地がある
いつの世も眺められたかスーパームーン
徒競走もう直ぐゴール風は秋
約束は疾うに過ぎても秋は来る
赤とんぼ何処から来たの塀の上
床の間のミャクミャク笑みし天高し
秋思へのAIの回答的はずれ
風邪はやるカラスの声もダミ声に
赤信号で待つ虫の音を聴きながら
とんぼうや缶蹴り鬼はお寺の子
紅茸に騙されさうな森にゐる
良夜かな濡れし睫毛の美しき
秋の夜信号働く午前二時
積乱雲お疲れ様です秋間近
曼珠沙華遅まきながらと庭の隅

青木輝子
青木輝子
井口夏子
井口夏子
池嶋久春
池嶋久春
池田奈美子
池田奈美子
池田亮二
池田亮二
伊藤浩睦
伊藤浩睦
糸賀幸剣
糸賀幸剣
糸賀幸剣
稲葉純子
稲葉純子
井野ひろみ
井野ひろみ
井野ひろみ
上山美穂
上山美穂
卯之町空
卯之町空
卯之町空
梅野光子
梅野光子
梅野光子

断ちがたき飲酒を断てり震災忌

芒野の落暉光れよ赤く赤く

稲光即ち天の叱咤かな

副腎をひとつ失ふ冬構へ

シマエナガ描かれ年末募金箱

大ゆれ小ゆれコスモスは銀河をめざす

退院は秋場所中盤のころに

いのち得て退院したる秋日かな

何よりも君をさかになに秋刀魚詠む

この世は無情なる水虫かゆし

神社にもセコムは必須神の留守

寄席文字のやうにやはらかスポーツの日

障子貼る私に父母は目を見張る

太古より変わることなき栗の美味

自然薯に合わせる蕎麦や麦がない

畔道の赤い花なら曼珠沙華

無花果のもぎたてがぶり喰らいつく

お供えは母にはおはぎ父に酒

教科書のアンダーラインと紙魚同居

お年玉薄き袋が良かりけり

涼しとは瘦せ我慢でも言えぬかな

季語なれど涼しと言えるは部屋だけよ

鬼やんまスターリンクの空を飛ぶ

巾着の後生大事と花石榴

広島より栗を求めて愛媛まで

運動会の線は真つ白天高し

初ひ孫抱けばよろける秋彼岸

長き夜のナイン話をAIと

秋の陽の色カップの縁の口紅は

ハロウィンが売場を占拠秋盛ん

柄川武子

柄川武子

柄川武子

遠藤真太郎

遠藤真太郎

大林和代

大林和代

大林和代

沖枇杷夫

沖枇杷夫

奥野元喜

奥野元喜

加藤潤子

加藤潤子

加藤潤子

門屋 定

門屋 定

門屋 定

北熊紀生

北熊紀生

木村 浩

木村 浩

工藤泰子

工藤泰子

黒田恵美子

黒田恵美子

黒田恵美子

桑田愛子

桑田愛子

桑田愛子

子の服を風になびかせ秋高し
月夜の散歩父の思い出ついでくる
菓子を断つ決意の揺らぐ長き夜
しがみつくほかなし完熟の苦瓜
競ひ合ひ手刀ふるはれ曼珠沙華
大相撲電気が走る肉離れ
声響く早やだんじりの試験曳き
表裏みせ散る紅葉のストリップ
秋刀魚焼く炎の中に海の色
秋夜長寂しがり屋の長電話
秋のお絵かきむずかしいんだ栗ブドウ
マイナカードに柿が好物との記載
月下美人銀座を辞めて丸の内へ
締切のメモのペタペタ秋暑し
花占いは「好き」で終わらず秋桜
月食の兎は何処へ追われたか
大雑把に生きている百日紅
振り向くな振り向きたい人間だもの
庭を掃く山茶花一輪よけて掃く
心地よい背にぬくもりや日脚のぶ
仲直りしたくて好物のおでん煮る
藤袴アサギマダラはまだ来ぬか？
秋来たる御輿は何度も鉢合わせ
あんどんの灯やさしき月見の夜
村芝居遊び上手な子が主役
神無月お神酒の匂う巫女に会い
小走りの膝に違和感薄紅葉
夢二忌や駅のパianoで恋の歌
枕辺に甘ゆる声よ蚊の名残

近藤志麻
近藤志麻
近藤志麻
桜井美千
桜井美千
敷島鐵嶺
敷島鐵嶺
壽命秀次
壽命秀次
壽命秀次
上甲 彰
上甲 彰
上甲 彰
鈴鹿洋子
鈴鹿洋子
鈴鹿洋子
鈴木和枝
鈴木和枝
曾根ともみ
曾根ともみ
曾根ともみ
高須賀溪山
高須賀溪山
高須賀溪山
高田敏男
高田敏男
田代輔八
田代輔八
田代輔八

秋暑し裸婦像腿(もも)を投げ出して

とんぼうや女社長の胸元に

野路菊に値札付けられ直売所

秋茜吾の頭上を旋回す

瞑想の習慣となる夜長かな

虫の音や手話のおしゃべりにぎわいて

三人の関係微妙な月の夜

床の間は本で抜け落ち秋読書

逃げようと追いかけようと十三夜

歳時記と趣味に苦しむ夜長かな

秋深し見て見ぬふりの体重計

予測とは違うボリューム馬肥ゆる

棕鳥は黒柳さんよりよくしゃべる

夜霧に紛れ酔客の阿波おどり

わにの子と見まがうばかり苦瓜は

芋煮会の包丁失せしどこへやら

犬猫と同じ洗い場水澄んで

きのこご飯中国製の冷凍の

雲の峰うすみづいろの空の裾

煙草断つ決意いくたび蛇穴に

伸びやかに二本の払ひ大文字

国分尼寺の跡地に咲くや草の花

テレパシーで交信風とコスモス

冷蔵庫の製氷の音長き夜の

土手地藏夕陽傾き笑みとなり

初紅葉猛暑で傷んだ葉に混じる

強面の政治家胸に赤い羽根

望月や昔は団子今バーガー

悪童は教師となりぬ帰り花

狛犬もすつ飛びゆくや神の旅

龍田珠美

龍田珠美

龍田珠美

田中 勇

田中 勇

田中 勇

谷本 宴

谷本 宴

谷本 宴

月城花風

月城花風

月城花風

土屋泰山

土屋泰山

土屋泰山

百目鬼強

百目鬼強

百目鬼強

尚山和桜

尚山和桜

尚山和桜

長井多可志

長井多可志

長井多可志

長井知則

長井知則

長井知則

永井流運

永井流運

西野周次

かつぼれもフラも得手なる猫じやらし
枝豆や今やレンチンひとり飯
虫時雨優勝迫るタイガース
虫の声空き屋に残るお仏壇
金銀を競うことなき木犀花
熊の餌場にヘリコプターで団栗を
秋うららビールの泡もうららら
美しき九十九髪なり暮の秋
縫物に余年惜しまず夜の長し
山粧ふ流行りのメイクもかなはない
ざつくりと割れているから柘榴とも
新米の値に備蓄米右往左往
濁り酒昔こそそそ今堂々
盛っ切りは新酒に限る猪口迎え
作りては捨てる千句や糸瓜の忌
子規の忌や親孝行とは死なぬこと
子の才の光れ光れと磨く秋
夏風邪にあつという間の草の庭
言い過ぎし要らぬ一言秋の暮
芋田楽ふるさと自慢めく地酒
新涼の池のベンチを独り占め
盆寺の帰りに買ひぬ生姜糖
信号の次々青に雲の峰
物件の価格高騰穴惑い
彼岸会に少し遅れて彼岸花
作柄を鳥が見に来た富有柿
夜遊びに倦みたる齡昼の虫
反論に間を置くための温め酒
残る虫反戦の声かすれ行く
地中から出れば地獄よ夏の蟬
ジイジイ爺婆は不機嫌夏の蟬

西野周次
能登久美子
能登久美子
能登久美子
花岡直樹
花岡直樹
花岡直樹
久松久子
久松久子
日根野聖子
日根野聖子
細川岩男
細川岩男
細川岩男
ほりもとちか
ほりもとちか
ほりもとちか
三木雅子
三木雅子
三木雅子
水本明日香
水本明日香
水本明日香
南とんぼ
南とんぼ
南とんぼ
峰崎成規
峰崎成規
峰崎成規
明神正道
明神正道

鬼ヤンマ附けて庭草抜く女房
残暑より暑さの伝わる季語が欲し
[言ひ訳に使へさう「危険な暑さ」](#)
じやじや馬やふくべの尻は重たかる
[風流の顔して食す菊脛](#)
煙茸オレオレ詐欺よかかってこい
こちらから見限りましたと捨案山子
[鯉幟絶滅危惧種の仲間入り](#)
中国産鰻躰に踏土用の丑
翡翠や散歩の先へ先へ行く
まぼろしの魚の仲間いわし雲
兄が来た煮崩れの栗を手土産に
[満月はそらの灯台迷い人](#)
夏帽子あるのになぜない秋帽子
[手編みの手袋片っぽだけで終わる恋](#)
予報士が折り畳み傘を勧める秋の朝
旧友を新酒があると誘い出す
[牛の子も目を輝かせて村祭](#)
馬肥ゆる私も肥ゆるケセラセラ
百二十一頁より紙魚走る
新米は控え控えと古古古米
[日輪の朱色欺くからす瓜](#)
滝壺の「にこ淵」の蒼深きかな
涼みゆう絵本の妖怪おんどろん
[ファミコンが民俗資料と知った秋](#)
秋刀魚肥えてほし我は肥えたくなし
[早生みかん新緑のごと初々し](#)
秋雨の二度目の梅雨を連れ来たり
山奥にたった一輪百合の花
[忘れ傘札所に一本紅葉寺](#)

明神正道
棕本望生
[棕本望生](#)
棕本望生
[村越 縁](#)
村越 縁
村越 縁
[村松道夫](#)
村松道夫
村松道夫
森岡香代子
森岡香代子
[森岡香代子](#)
八木 健
[八木 健](#)
八木 健
八塚一青
[八塚一青](#)
八塚一青
柳村光寛
柳村光寛
[柳村光寛](#)
山岡純子
山岡純子
[山岡純子](#)
山下正純
[山下正純](#)
山下正純
弓達美沙子
[弓達美沙子](#)